

令和6年度 学校自己評価（中間報告）

本年度の 重点目標	<p>1 社会的自立に向けて、自己肯定感を高め、主体的に取り組む生徒を育てる。</p> <p>2 従来の指導方針を継承しつつ、社会のニーズも視野に入れたキャリア教育を進める。</p> <p>3 いじめ・不登校等への支援、作業中の事故や熱中症等への対策を通して、安全で健康的に活動できる環境を整える。</p> <p>4 エ夫とコミュニケーションにより、業務量の適正化を図る。</p>			
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価	評価の理由と改善案
生徒の主体性の伸長（教務部）	自立活動の充実を図る。	・自立活動担当者にて、自立活動の取り組み方、自分ノートの内容等を検討する。	B	・自立活動の取り組み方等の課題を挙げていき、より良い取り組み方について、検討を進めている。
生徒の主体性の伸長（教育支援部）	自己肯定感を高め、主体的な行動につなげる取組の実施	・重点目標を校内研究のテーマとして設定し、全職員が、重点目標の達成を目指して、担当する授業や諸活動で取り組めるようにする。	B	・この時期は（レポート提出12月末）、各職員がどの段階まで実践できているか分からないが、主体性と自己肯定感の重要性は、ある程度周知できたと思う。今後は、よりよい実践ができるように働きかけていきたい。
教育課程の見直し、キャリア教育の充実（教務部）	個別の指導計画の適切な目標設定と評価の実施（3観点評価）	・各観点で適切な評価を行うことができるよう各教科会で検討する。	B	・前期の通知表の評価の内容を確認したところ、3観点を整理して記入できていない教科もあるため、教科主任者会や部会を通して、後期の評価が充実するよう働きかけていきたい。
教育課程の見直し、キャリア教育の充実（進路指導部）	生徒の実態に即した進路指導の充実を図る	・授業や実習等を通して生徒の「社会で活躍できる力」を把握する。	B	・夏季休業中に外部の方より講話を聞く機会を設定した。生徒が社会で活躍するために必要な力について考えるきっかけになったと感じる。今後は、自己理解について深めたい。
人権意識の涵養、安全教育の充実（保健体育部）	心身ともに健康的な学校生活の実現	<p>・日々の健康観察から、心や身体の状態を把握し、いじめや不登校などに学級や学年の職員と連携して対応する。</p> <p>・保健室の利用状況、事故報告書や「ヒヤリハット事例」を分析、活用し、けがや事故の予防につなげる。</p>	A	<p>・年度の初めには1年生の生徒で不登校気味の生徒がいたが、カウンセラーの先生にお話を聞いてもらい、今は登校できるようになった。</p> <p>・掲示や声掛け等で熱中症対策を周知し、早めの休憩や処置をすることができた。熱中症や事故等による救急搬送は発生しなかった。</p>

人権意識の涵養、安全教育の充実 (総務部)	改修工事に伴う物品移動の安全円滑な実施	・改修場所、時期を把握し、安全・確実に物品移動ができるように計画し、実施する。	B	・大掃除の時間を利用して物品移動を行うことができたが、多くの場合は工期に追われ、職業種目等の授業を利用して教室移動することが多かった。移動期間を延ばすことで選択肢を増やせるようにしたい。
人権意識の涵養、安全教育の充実 (生徒指導部)	社会ニーズを踏まえた生徒指導の構築	・携帯電話、スマートフォンの現実的な扱い方に移行する。 ・生徒会アンケート等を生かして安心できる学校生活にしていく。	B	・スマートフォンの扱いは登下校中は電源を ON にし、緊急時はすぐに対応できる体制を整えている最中。一定の検証を踏まえ、今後の対応策を決定していきたい。 ・生徒にとっての安心の場に学校がなるように生徒会を中心に進めていく予定。
教職員の働き方改革の推進 (教育支援部)	eラーニングなどのコンテンツを活用して、授業準備などにかかる時間を削減する。	・授業や生徒指導などに有効になるであろう研修会、動画、書籍などを調べ、紹介する。	B	・グループウェア（電子掲示板）や部会などで、研修会、eラーニング、お勧め動画の紹介などを行った。eラーニングの受講者は昨年度より増えている。今後は、これらを授業や教材研究につなげられるように、具体的な発信を行っていきたい。
教職員の働き方改革の推進 (寮務部)	従来行ってきた業務を見直し、効率化を目指す。	・寄宿舍指導員の支給パソコンの台数が減る中、削減できる業務はないか、年間を通して検討する。 ・寄宿舍生の薬・貴重品の受け渡し方法について変更できないか検討する。	B	・これまで分散していた指導員の休憩時間を統一した。これにより、効率的な寮務分掌等を行うことができるようになった。 ・薬・貴重品の受け渡しを学校職員を介さずに行うようにしたことで、業務の削減につなげることができた。
教職員の働き方改革の推進 (部会・運営委員会)	勤務時間の適正化、業務の効率化	・業務内容の精選と効率的な役割分担等を検討し、業務の見直し、改善を図っていくようにする。 ・在校時間が長時間化している職員に対してその事情を把握する。	B	・昨年度から実施している業務効率化等の取組や施錠時刻を19時30分に設定したことで、20時間以内の時間外で業務を終えている職員が増えた。一方で、45時間以上の職員の割合は依然として変わらない状況。今後は、更なる業務効率化等に向けた施策を検討していく予定。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・生徒の主体性の伸長 ・教育課程の見直し、キャリア教育の充実 ・人権意識の涵養、安全教育の充実 ・教職員の働き方改革の推進		

※評価基準

A：計画どおりにできた。

B：ほぼ計画どおりにできた。

C：あまり計画どおりにできなかった。

D：計画どおりにできなかった。